

業績説明会資料

**2026年3月期(2025年度)
第2四半期(中間期)決算**

2025年11月19日



おはようございます。社長の沢村でございます。本日は、ご多忙の中、当社の業績説明会にご参加賜りまして、誠にありがとうございます。また、平素は格別のご高配をいただいておりますこと、あらためて感謝申し上げます。

それでは、2026年3月期第2四半期決算についてご説明いたします。

目次

1. 2025年度 上期業績	P4 ~ 9
2. 2025年度 通期業績予想	P11 ~ 17
3. 事業トピックス・研究開発	P19 ~ 24

説明内容をお示しします。

目次

1. 2025年度 上期業績	P4 ~ 9
2. 2025年度 通期業績予想	P11 ~ 17
3. 事業トピックス・研究開発	P19 ~ 24

はじめに2025年度上期業績についてご説明いたします。

連結損益計算書

- ◆ 化薬事業は好調、医薬・医療・健康事業はDDS医薬用製剤原料が堅調に推移
- ◆ 機能化学品事業は一部を除き需要減により低調

[億円]

	2024年度 上期	2025年度 上期	増減額	増減率
売上高	1,105	1,091	▲13	▲1.2%
売上総利益	425	410	▲16	▲3.7%
(売上総利益率)	(38.5%)	(37.5%)		
販売費・管理費	192	203	+11	
営業利益	233	206	▲27	▲11.5%
(営業利益率)	(21.1%)	(18.9%)		
営業外損益	3	10	+7	
経常利益	236	216	▲20	▲8.3%
特別損益	8	3	▲5	
税金等調整前中間純利益	244	219	▲25	▲10.1%
法人税・調整額他	73	65	▲9	
当期純利益※	170	154	▲16	▲9.4%

※当期純利益＝親会社株主に帰属する中間純利益

4

連結損益計算書についてご説明いたします。

2025年度上期は、化薬事業は好調となり、医薬・医療・健康事業はDDS医薬用製剤原料が堅調に推移したものの、機能化学品事業は一部を除き需要減のため低調となり、前年同期比にて減収減益となりました。

次に、連結営業利益の差異内訳についてご説明いたします。

5枚目のスライドをご覧ください。

連結営業利益の差異内訳

2025年度上期実績 対 2024年度上期実績



※1 増減販及び変動費には、計▲4億円の為替影響を含む
 ※2 固定費には、計+1億円の棚卸影響を含む

2025年度上期連結営業利益について、対前年同期の差異要因をグラフにお示しいたします。

前年同期に対し、固定費の増加によるマイナス27億円により、連結営業利益は27億円の減益となりました。

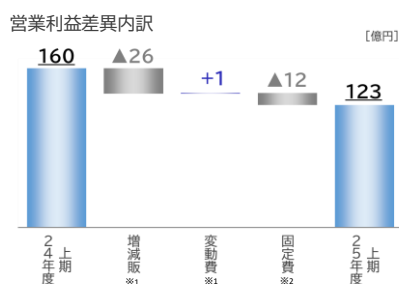
続いて、セグメント別の説明に移ります。

6枚目のスライドをご覧ください。

機能化学品事業

2025年度上期の概況

	2024年度 上期	2025年度 上期	増減額
売上高	755	691	▲64
営業利益	160	123	▲37
(営業利益率)	(21.3%)	(17.9%)	



※1 増減販及び変動費には、計▲1億円の為替影響を含む
 ※2 固定費には、計+0億円の棚卸影響を含む

- ◆ 減収減益
- ◆ 一部を除き全般的に需要低調

概況

- ・界面活性剤
⇒化粧品関連製品は一部顧客の在庫調整により出荷減
- ・特殊防錆処理剤
⇒国内外向け自動車関連製品の需要好調
- ・機能化学品全般
⇒脂肪酸誘導体など概ね低調

機能化学品事業について、前年同期比較でご説明いたします。

上期の機能化学品事業は、一部を除き全般的に需要低調となり減収減益となりました。

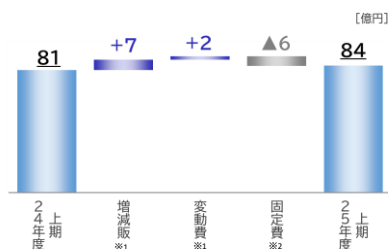
上期営業利益37億円減益の差異内訳は、増減販は特殊防錆処理剤が需要好調であったものの全般的に需要低調に推移したことによる減販でマイナス26億円、変動費の減少によりプラス1億円、労務費などの固定費の増加によるマイナス12億円となります。

7枚目のスライドをご覧ください。

2025年度上期の概況

	2024年度 上期	2025年度 上期	増減額
売上高	230	250	+20
営業利益	81	84	+3
(営業利益率)	(35.1%)	(33.4%)	

営業利益差異内訳



※1 増減販及び変動費には、計▲3億円の為替影響を含む
 ※2 固定費には、計+0億円の棚卸影響を含む

- ◆増収増益
- ◆ DDS医薬用製剤原料は底堅く推移

概況

- ・DDS医薬用製剤原料
⇒需要・出荷が底堅く、前年並み
- ・食用加工油脂・食品機能材
⇒需要が落ち着いたものの、適正価格の維持に努めた
- ・生体適合性素材
⇒MPC関連製品の需要は低調に推移

上期の医薬・医療・健康事業は、DDS医薬用製剤原料が底堅く推移したことにより増収増益となりました。

上期営業利益3億円増益の差異内訳は、増減販はプラス7億円、変動費の減少によりプラス2億円、労務費などの固定費の増加によるマイナス6億円となります。

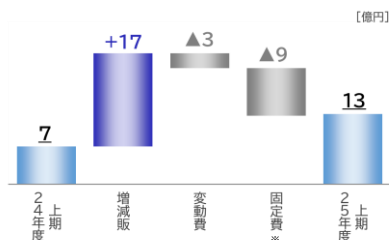
8枚目のスライドをご覧ください。

化薬事業

2025年度上期の概況

	2024年度 上期	2025年度 上期	増減額
売上高	117	147	+31
営業利益	7	13	+6
(営業利益率)	(6.2%)	(8.8%)	

営業利益差異内訳



※ 固定費には、計+0億円の棚卸影響を含む

- ◆ 増収増益
- ◆ 防衛関連製品など好調に推移

概況

- ・防衛関連製品
⇒需要が好調に推移
- ・宇宙関連製品
⇒ロケット向け製品の出荷が増加
- ・産業用爆薬類
⇒需要が好調に推移
- ・機能製品
⇒需要が堅調に推移

上期の化薬事業は、防衛関連製品など好調に推移し、増収増益となりました。

上期営業利益6億円増益の差異内訳は、増減販はプラス17億円、変動費がマイナス3億円、労務費などの固定費の増加によるマイナス9億円となります。

9枚目のスライドをご覧ください。

2025年度上期 前年同期比の業績動向(主要製品)

セグメント	主要製品	売上高	営業利益	業績動向
機能化学品	界面活性剤			化粧品関連製品における一部顧客の在庫調整により減益
	特殊防錆処理剤			国内外で自動車関連製品の需要が好調に推移し増益
	脂肪酸誘導体			中国における冷凍機用潤滑基材の出荷が低調に推移
医薬・医療・健康	DDS医薬用製剤原料			需要・出荷が底堅く推移
	食用加工油脂・食品機能材			需要が落ち着いたものの、適正価格の維持に努めた
化薬	防衛関連製品			出荷が増加し増益
	宇宙関連製品			ロケット向け製品の出荷が増加し増益

9

主要製品の業績動向についてご説明いたします。

機能化学品事業では、特殊防錆処理剤は増益の一方、界面活性剤、脂肪酸誘導体は減益となりました。医薬・医療・健康事業では、DDS医薬用製剤原料および食用加工油脂・食品機能材はともに前年並みの営業利益となりました。化薬事業は、防衛関連製品および宇宙関連製品ともに増益となりました。

10枚目のスライドをご覧ください。

目次

1. 2025年度 上期業績	P4 ~ 9
2. 2025年度 通期業績予想	P11 ~ 17
3. 事業トピックス・研究開発	P19 ~ 24

続いて2025年度 通期業績予想についてご説明いたします。

2025年度業績予想(11/6修正)の概要

- ◆2025中計営業利益目標460億円達成を目指す
- ◆売上高、営業利益、経常利益および当期純利益全て過去最高を更新する計画
- ◆米国の関税政策による直接的な業績への影響は軽微と想定

[億円]

	2024年度 実績	2025年度 前回予想 (5/9)	2025年度 今回修正予想 (11/6)	前回予想から の増減額	前回予想から の増減率
売上高	2,383	2,520	2,584	+64	+2.5%
営業利益	453	460	460	-	-
(営業利益率)	(19.0%)	(18.3%)	(17.8%)		
経常利益	466	479	483	+4	+0.8%
当期純利益※	365	368	382	+14	+3.8%
1株当たり 当期純利益	153.9円	157.6円	166.2円	+8.6円	

※当期純利益＝親会社株主に帰属する当期純利益

<業績予想 前提>	2024年度 実績	2025年度 前回想定 (5/9)	2025年度 今回修正想定 (11/6)
為替レート 円/US\$	153	145	147
円/EUR	164	160	170

11

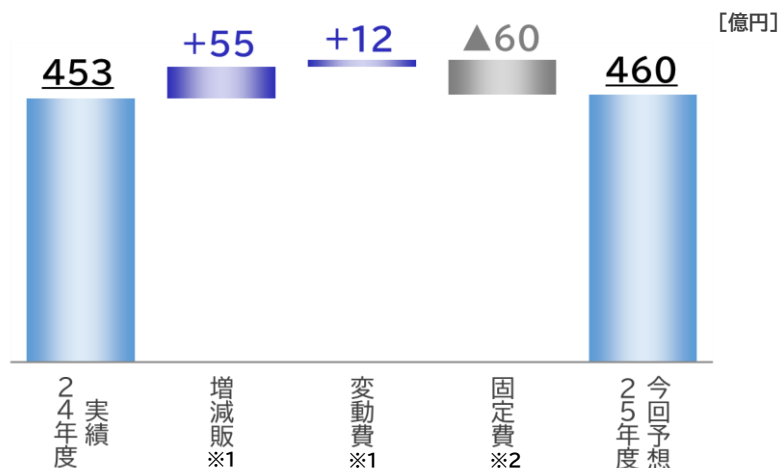
2025年度連結業績予想の概要をお示いたします。

売上高は、前回予想から64億円増収の2,584億円、営業利益は、前回予想と同じ460億円、経常利益は、4億円増益の483億円、当期純利益は、14億円増益の382億円へ修正いたしました。一株当たり当期純利益は166.2円を見込んでおります。

12枚目のスライドをご覧ください。

連結営業利益の差異内訳

2025年度今回予想【11/6】対 2024年度実績



※1 増減販及び変動費には、計▲3億円の為替影響を含む
 ※2 固定費には、計+2億円の棚卸影響を含む

12

2025年度連結営業利益について、今回修正予想と前年度実績の差異要因をグラフにお示しいたします。

2024年度実績に対し、増減販でプラス55億円、変動費の減少によりプラス12億円、固定費の増加によりマイナス60億円を見込み、2025年度営業利益は7億円増益の460億円の見通しです。

続いて、セグメント別の説明に移ります。

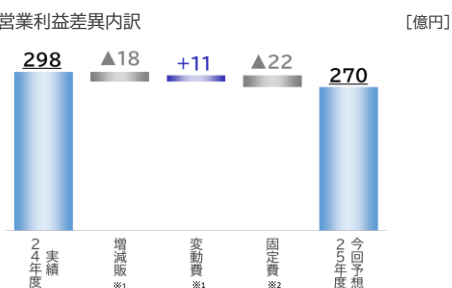
13枚目のスライドをご覧ください。

機能化学品事業

2025年度通期見通し

	2024年度 実績	2025年度 今回修正予想	増減額
売上高	1,509	1,480	▲29
営業利益	298	270	▲28
(営業利益率)	(19.7%)	(18.2%)	

営業利益差異内訳



※1 増減販及び変動費には、計▲1億円の為替影響を含む
※2 固定費には、計▲2億円の棚卸影響を含む

- ◆ 減収減益
- ◆ 一部を除き全般的に需要低調

下期概況

- ・界面活性剤
⇒化粧品関連製品は、一部顧客の在庫調整が一巡し
出荷は回復
- ・特殊防錆処理剤
⇒国内外向け自動車関連製品の需要好調
- ・機能化学品全般
⇒脂肪酸誘導体など概ね低調

機能化学品事業の2025年度予想について前年同期比較でご説明いたします。

通期見通しは、売上高は29億円減収の1,480億円、営業利益は28億円減益の270億円と、一部を除き全般的に需要低調により減収減益となる見込みです。

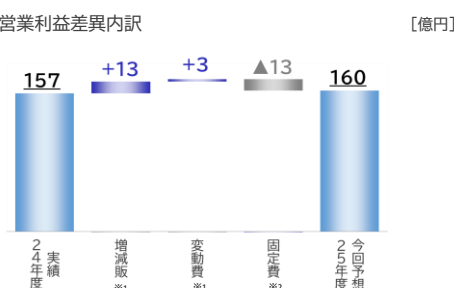
通期営業利益28億円減益の差異内訳は、上期に引き続き下期も一部を除き全般的に需要が低調に推移することにより増減販はマイナス18億円、変動費の減少により、プラス11億円、労務費などの固定費の増加によりマイナス22億円となります。

14枚目のスライドをご覧ください。

2025年度通期見通し

	2024年度 実績	2025年度 今回修正予想	増減額
売上高	480	508	+28
営業利益	157	160	+3
(営業利益率)	(32.7%)	(31.5%)	

営業利益差異内訳



※1 増減販及び変動費には、計▲3億円の為替影響を含む

※2 固定費には、計+6億円の棚卸影響を含む

- ◆ 増収増益
- ◆ DDS医薬用製剤原料は堅調に推移

下期概況

- ・DDS医薬用製剤原料
⇒需要・出荷が堅調に推移
- ・食用加工油脂・食品機能材
⇒原燃料価格上昇を受け適正価格維持に努める
- ・生体適合性素材
⇒MPC関連製品の需要が堅調に推移

14

次に、医薬・医療・健康事業です。

通期見通しは、売上高は28億円増収の508億円、営業利益は3億円増益の160億円と、DDS医薬用製剤原料が堅調に推移することにより、増収増益となる見込みです。

通期営業利益3億円増益の差異内訳は、増減販がプラス13億円、変動費がプラス3億円、戦略投資などによる固定費の増加によりマイナス13億円となります。

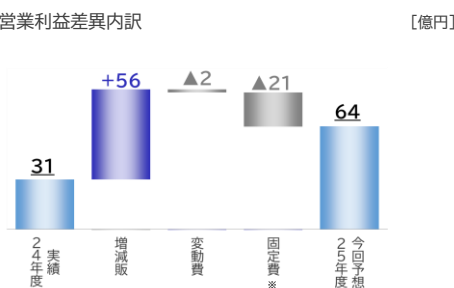
15枚目のスライドをご覧ください。

化薬事業

2025年度通期見通し

	2024年度 実績	2025年度 今回修正予想	増減額
売上高	388	590	+202
営業利益	31	64	+33
(営業利益率)	(8.1%)	(10.8%)	

営業利益差異内訳



※ 固定費には、計▲3億円の棚卸影響を含む

- ◆ 増収増益
- ◆ 防衛関連製品の売上高が増加

下期概況

・防衛関連製品

⇒ 早期装備化の初度費に係る一部取引において一定期間にわたり充足する履行義務に応じて収益を認識する契約が識別された(確定した契約において)ため、期初時点において次期中計で想定された一部の収益及び費用を計上

・宇宙関連製品

⇒ ロケット向け製品の順調な出荷

次に、化薬事業です。

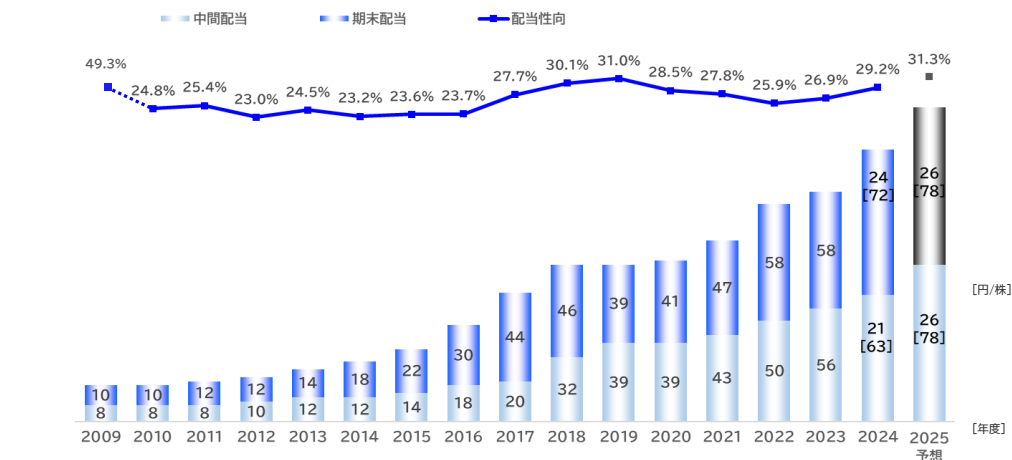
通期見通しは、売上高は202億円増収の590億円、営業利益は33億円増益の64億円と、防衛関連製品の売上が大きく増加することにより増収増益となる見込みです。防衛関連製品の売上高が増加するのは、早期装備化の初度費に係る一部取引が一時点でなく一定期間にわたり収益認識する契約と識別され、下期に収益および費用が計上されることによります。

通期営業利益33億円増益の差異内訳は、増減販は防衛関連製品の増加によりプラス56億円、変動費がマイナス2億円、労務費などの固定費の増加によりマイナス21億円となります。

16枚目のスライドをご覧ください。

2025年度配当

- ◆2025年度の年間配当は、52円(前回予想比4円増配)に上方修正
- ◆安定的な配当の維持継続を基本とし、中長期的に累進配当を目指す



(注)当社は、2017年10月1日付で普通株式2株につき1株の割合で株式併合を行っております。2017年度中間配当以前の配当金について、普通株式2株につき1株の割合で株式併合した場合の額を記載しております。
また、2024年4月1日付で普通株式1株を3株に分割を行っております。2024年度および2025年度予想の【】内は、分割前換算額を記載しております。またグラフは、分割前換算値により作成しております。

配当および配当性向の推移をグラフにてお示いたします。

2025年度の間配当は26円、期末配当は26円を予想しており、年間配当は前回予想に比べ4円増配の52円に上方修正いたしました。配当性向は31.3%となる見込みです。2009年度以降、累進配当を継続しており、今後も安定的な配当の維持継続を基本に中長期的に累進配当を目指します。

17枚目のスライドをご覧ください。

株主還元 総還元性向

自己株式50億円取得(2025年11月7日～2025年12月31日)

資本効率向上を意識した株主還元を実施、戦略投資とのバランスを取りながら株主還元の維持向上に努める



資本効率向上に向けて、
機動的な自己株式取得を検討

(2025中計期間目標水準)
総還元性向50%程度

※1 23年度の自己株式取得額は、2024年5月9日決定の20億円取得(2024年5月10日～2024年6月21日)を含む
※2 24年度の自己株式取得額は、2025年5月9日決定の100億円取得(2025年5月12日～2025年8月5日)を含む

総還元性向の推移についてお示いたします。

株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと認識しており、安定的な配当の維持継続と併せて、自己株式取得も株主還元として実施してまいります。なお、2025年11月7日から12月31日にかけて、総額50億円を上限として自己株式を取得してまいります。

引き続き資本効率向上を意識し、戦略投資とのバランスを取りながら、株主還元の維持向上に努めてまいります。

18枚目のスライドをご覧ください。

目次

1. 2025年度 上期業績	P4 ~ 9
2. 2025年度 通期業績予想	P11 ~ 17
3. 事業トピックス・研究開発	P19 ~ 24

続いて事業トピックスと研究開発についてご説明いたします。

防曇剤の事業展開 ～機能化学品事業～

防曇剤とは

- ・プラスチックやガラスなどの表面に水分が結露して生じる曇りを防止するコーティング剤
- ・当社防曇剤の主用途は自動車用ヘッドランプやリアコンビネーションランプ

当社の強み

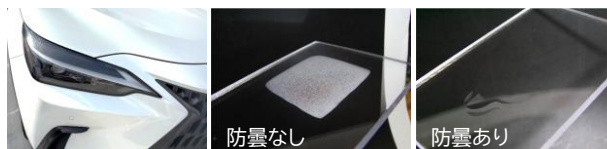
- ・固有技術による優れた防曇性能と高い信頼性
- ・世界各国での長年の市場実績

事業環境

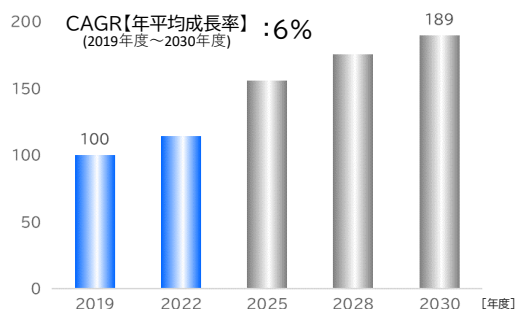
- ・自動車生産台数の堅調な成長
- ・防曇剤の使用比率が高いLEDランプ搭載率の上昇

成長への施策

- ・固有技術と市場要望を取り込んだ製品の開発と投入
- ・世界各国への継続的な拡販によるシェア拡大
- ・スポーツゴーグル等、非自動車用途への製品展開



防曇剤の販売計画(指数) ※2019年度を100として指数表示



19

始めに、機能化学品事業の防曇剤の事業展開についてご紹介します。

防曇剤とは水分が結露して生じる曇りを防止するコーティング剤で、当社防曇剤の主用途は自動車用ヘッドランプやリアコンビネーションランプです。当社防曇剤の強みは、固有技術による優れた防曇性能と自動車用途に通用する高い信頼性です。また、世界各国で長年の市場実績を有しています。防曇剤の事業環境は、自動車生産台数の堅調な成長が見込まれます。また、防曇剤はLEDランプでの使用比率が高く、そのLEDランプの自動車への搭載率も上昇することが見込まれます。これらの環境下、2030年度に向けて当社防曇剤は、年平均成長率6%で成長するものと見込んでおります。

この成長への施策として、固有技術と市場要望を取り込んだ製品の開発と投入で、世界各国への継続的な拡販を行うことによりシェアを拡大するとともに、スポーツゴーグル等の非自動車用途への製品展開を進めてまいります。

20枚目のスライドをご覧ください。

食品機能材(ルテイン配合製品)の事業展開 ～医薬・医療・健康事業～

バイオからでるまで
日油

食品機能材とは

- ・顧客製品(パン・菓子・加工食品)の付加価値を向上させる素材
- ・ルテイン配合製品を中心に事業展開

事業環境と顧客の課題

- ・冷凍パン・冷凍パン生地市場が拡大
⇒冷凍保管中のグルテン損傷による品質低下の改善が課題
- ・様々な種類の麺(即席麺やチルド麺など)の需要が増加
⇒小麦グルテンの自然なコシの強さの実現が課題

ルテイン配合製品



- ・レタスの葉に含まれるルテインに、小麦グルテンの食感を変える効果
- ・廃棄レタス活用により、サステナビリティ向上に貢献

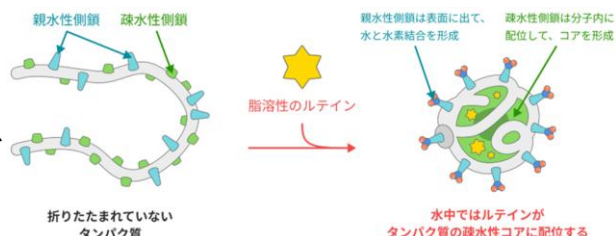
「ルテイン配合改質材」シリーズ
「第28回日食優秀食品素材賞」を受賞(2025年9月11日)

ルテイン配合製品により顧客課題を解決

今後の展開

ルテイン配合製品について、肉・卵・乳タンパク質の改質により、さらなる広範囲の加工食品市場での顧客課題の解決に貢献

【ルテインにより小麦グルテンの食感を変える作用イメージ】



20

続いて、医薬・医療・健康事業の食品機能材の事業展開についてご紹介します。

食品機能材とは、顧客製品の付加価値を向上させる素材であり、当社はレタスの葉に含まれるルテインに、小麦グルテンの食感を変える効果を見出し、このルテイン配合製品を中心に事業展開しております。事業環境は、冷凍パンや冷凍パン生地の市場が拡大しており、冷凍保管中の品質低下の改善が顧客課題となります。また様々な種類の麺の需要が増加する中、小麦グルテンの自然なコシの強さを実現することにおいても顧客課題となっております。当社のルテイン配合製品は、これらの顧客課題の解決に貢献することが可能です。今後の展開は、小麦製品だけではなく、肉、卵、乳タンパク質の改質により、さらなる顧客課題の解決に貢献してまいります。

21枚目のスライドをご覧ください。

CPTデータ取得サービスの事業展開～化薬事業～

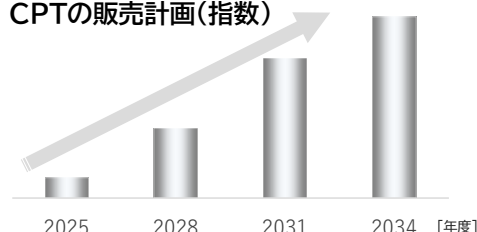
CPTデータ取得サービスとは

- ・CPT(Cone Penetration Test:コーン貫入試験)とは海底地盤の強度や力学的特性の数値データをコーン型センサを貫入し取得する調査法
- ・海底着座型CPT装置を自社開発し、CPT装置とオペレーターと一体で派遣するサービス
- ・当社グループの日油技研工業(株)にてCPTデータ取得サービスを2025年7月より開始

【調査対象】

- ・浮体式洋上風車のアンカリングポイント
- ・海底インフラ(通信ケーブル、二酸化炭素回収・貯留施設(CCS)パイプライン)の敷設ルート

CPTの販売計画(指数)



今後の展開

海底地盤調査におけるCPT調査の普及・市場拡大を通じ、洋上風車、海底インフラ開発を技術的に支援

日本のエネルギー自給率向上、脱炭素社会の実現に貢献

続いて、化薬事業のCPTデータ取得サービスの事業展開についてご紹介します。

このサービスは、海底地盤の強度や力学的特性の数値データを取得するためにCPT装置とオペレーターを一体で派遣いたします。当社グループの日油技研工業にて本年7月よりサービスの提供を開始しました。日油技研工業は固有の火工品技術により、海洋機器事業に長年携わっており、本事業で培った耐圧・密封・計測技術の知見を活かし、海底着座型CPT装置を新規開発し、サービス展開しております。浮体式洋上風車のアンカリングポイントや海底インフラの敷設ルートの調査の際にご利用いただきます。これらの開発を支援することで、日本のエネルギー自給率の向上や脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

22枚目のスライドをご覧ください。

新規事業創出に向けた研究開発

目指す3つの分野(「ライフ・ヘルスケア」、「環境・エネルギー」、「電子・情報」)で研究開発を推進

➤ 新規事業創出のための6つの重点事業領域を選定

医薬素材

医療・医療機器素材

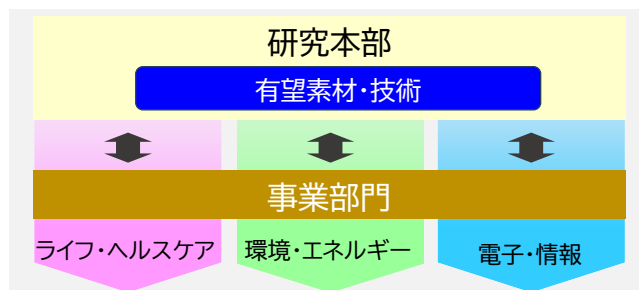
機能性化学素材

機能性食品素材

エレクトロニクス素材

自動車素材

社会課題 市場ニーズ



研究本部は、6つの重点事業領域の有望素材・技術の発掘と技術検証を実施

事業部門は、実用化検討を実施

新しい価値の創造

研究本部と事業部門が連携し新規事業を創出

22

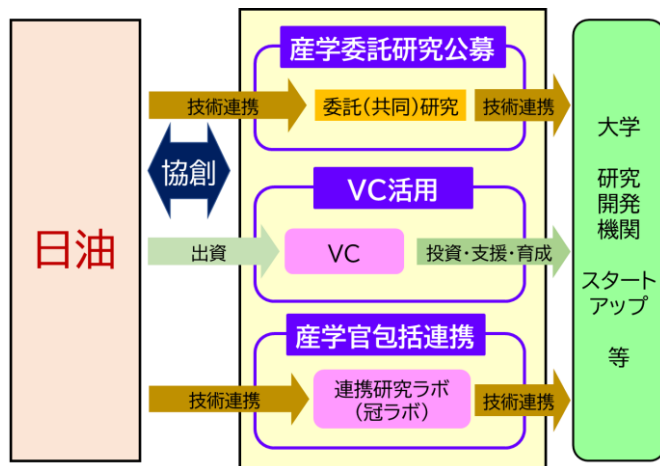
続いて、コーポレート部門の研究本部と事業部門の連携による新規事業創出に向けた研究開発についてご説明いたします。

当社の目指す3分野である「ライフ・ヘルスケア」「環境・エネルギー」「電子・情報」において、新規事業創出に向けて新たに6つの重点事業領域を選定いたしました。これらの領域において、社会課題の解決に貢献できる新製品・新技術の創出を目指しております。研究本部では有望な素材や技術の発掘と技術検証を行い、事業部門では実用化の検討を進めております。研究本部と事業部門が連携することで、新規事業の創出を実現してまいります。

23枚目のスライドをご覧ください。

オープンイノベーションの推進

外部組織との連携で、有望な素材・技術を発掘し、新規事業を創出



➤ オープンイノベーションへの取組み

- ・産学委託研究公募※
- ・VC(ベンチャーキャピタル)の活用
- ・産学官包括連携(連携研究ラボ)

※2025年度は「エレクトロニクス素材」で実施募集テーマ

- ・熱制御・熱管理用素材
- ・次世代太陽電池用素材
- ・次世代ディスプレイ用素材
- ・二次電池用素材
- ・次世代半導体用素材

23

新規事業の創出を加速するため、オープンイノベーションの推進に取り組んでおります。主な施策として、産学委託研究公募、ベンチャーキャピタルへの出資、産学官連携研究ラボの活用などを行っております。

産学委託研究公募は2021年度より実施しており、本年度は「エレクトロニクス素材」においてテーマ公募を行っております。ベンチャーキャピタルの活用では、スタートアップ企業と協創し、有望な技術の育成に努めております。産学官包括連携では、産業技術総合研究所との連携研究ラボを設立し、環境調和型の化学品および製造プロセスの開発を推進しております。

これらのオープンイノベーションへの取り組みにより、新規事業の創出をさらに加速してまいります。

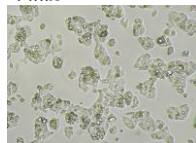
24枚目のスライドをご覧ください。

発掘した素材・技術の一例

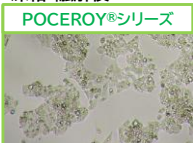
医療・医療機器素材: 細胞凍結保存液 POCEROY®シリーズ

- ◆ 創薬開発や再生医療向け細胞凍結保存液
- ◆ 独自ポリマーの配合により培養細胞をそのまま凍結保存可能
- ◆ 解凍後の細胞生存率や細胞機能、細胞形態を維持

凍結前

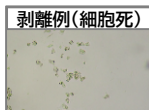


凍結・融解後



凍結前の
細胞形態維持

細胞形態が
維持されない例



機能性食品素材: 北海道白ぶどう果皮パウダー

- ◆ 北海道産の白ぶどう「ナイヤガラ種」を100%使用
- ◆ ワイン製造時の残渣を有効活用したアップサイクル素材
- ◆ 肌にうるおいと弾力を与えることについて臨床試験済



これらの新規事業創出に向けた研究開発により発掘した、素材や技術を2つご紹介いたします。

1つ目は、医療・医療機器領域における独自ポリマーを配合した創薬開発や、再生医療向け細胞凍結保存液です。培養細胞にこの細胞凍結保存液を添加することで、そのまま凍結保存が可能となり、培養細胞の大量保存が実現できます。現在、サンプルワークを開始しており、早期の上市を目指しております。

2つ目は、機能性食品領域における北海道白ぶどう果皮パウダーです。これは、ワイン製造後に残るブドウの果皮を再利用して粉末化した製品で、肌の健康維持に寄与する働きがあります。従来廃棄されていた原料素材をアップサイクルすることで、持続可能な社会の実現にも貢献してまいります。

ご説明の最後に ～次期中計策定に向けて～

2025年度第2四半期決算のご説明は以上となります。

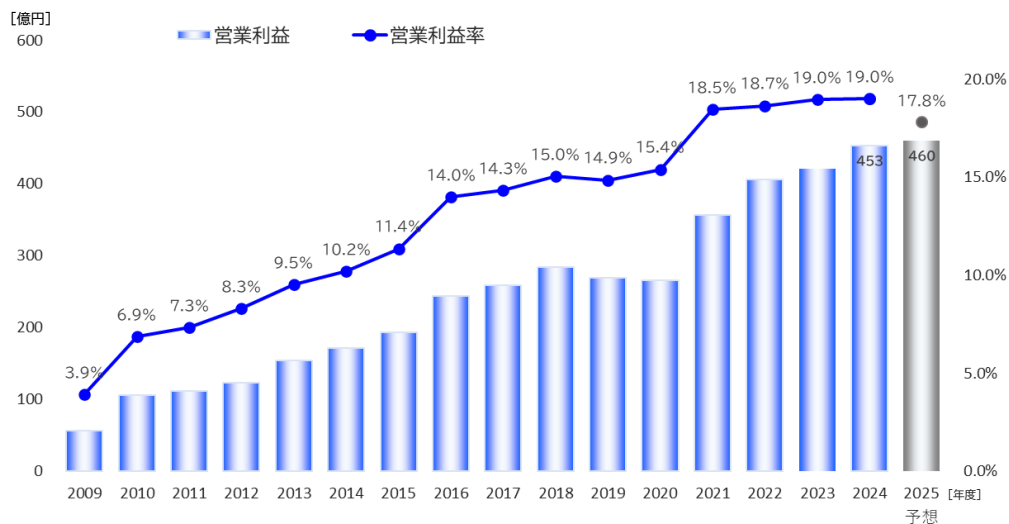
本年度は、2025中計の総仕上げと同時に、2028中計へと続く重要な架け橋となる年です。本年度も残り半分を切りましたが、引き続き下期においても中計の達成のため着実に事業を推進してまいります。また、当社が「事業領域拡大ステージ」と位置付ける2028中計の策定において、成長の原動力であるソリューションビジネスの強化や新規事業創出に向けた、施策や投資計画の立案を着実に進めてまいります。

以上、ご清聴ありがとうございました。

Appendix

業績推移

◆ 汎用品から高付加価値製品へのシフトおよび成長分野への拡販により、営業利益および営業利益率を拡大



日油グループの事業構成



- ◆国内外の幅広い業界の顧客と接点、他社と競合しないニッチ・ハイエンド市場への製品展開を志向
- ◆シクリカルな事業とディフェンシブな事業のバランスによる景気の変動に対する耐性

セグメント	事業分類	製品分類	代表的な製品
機能化学品	機能材料事業	脂肪酸・脂肪酸誘導体	脂肪酸、グリセリン、潤滑剤、冷凍機用潤滑基材、トナー用添加剤
		界面活性剤	化粧品ODM製品、化粧品原料
		EO・PO誘導体	基礎化粧品原料、電子材料素材
		有機過酸化物	樹脂の重合開始剤
		石油化学品	ポリブテン
		機能性ポリマー	防曇剤、樹脂用機能性添加剤
	防錆事業	特殊防錆処理剤	水系完全クロムフリー防錆剤(ジオメット®)
医薬・医療・健康	機能食品事業	食品機能材、食用加工油脂	機能性油脂、改質材、マーガリン、ショートニング
		健康関連製品	健康関連素材、油脂コーティング製品
	ライフサイエンス事業	生体適合性素材	MPCポリマー、MPCモノマー
		DDS医薬用製剤原料	活性化PEG、機能性脂質、医薬用高純度界面活性剤
化薬	化薬事業	産業用爆薬類	含水爆薬、電気雷管
		宇宙関連製品	宇宙ロケット用固体推進薬、宇宙用火工品
		防衛関連製品	防衛用発射薬、防衛用推進薬、防衛用火工品
		機能製品	示温材、防犯機器、液状凍結防止剤、海洋機器

連結貸借対照表



[億円]

	2025年 3月末	2025年 9月末	増減額		2025年 3月末	2025年 9月末	増減額
現預金	871	917	+47	仕入債務	239	227	▲12
売上債権	628	537	▲91	有利子負債	50	52	+2
棚卸資産	573	666	+93	繰延税金負債	116	138	+23
その他流動資産	48	50	+2	その他	372	526	+155
有形・無形 固定資産	870	953	+83	(負 債)(776)(944)(+168)			
投資有価証券	419	493	+74	株主資本	2,467	2,465	▲2
その他	163	160	▲3	その他の包括利 益累計額	318	356	+38
				非支配株主持分	10	10	▲0
				(純 資 産)(2,796)(2,831)(+36)			
資産	3,572	3,776	+204	負債・純資産	3,572	3,776	+204

連結キャッシュ・フロー計算書

	[億円]	
	2024年度 上期	2025年度 上期
1. 営業活動によるキャッシュ・フロー	154	276
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲86	▲70
3. 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲67	▲153
長期・短期借入金の増減	0	1
自己株式取得	▲20	▲100
配当金の支払	▲46	▲56
その他	▲1	3
4. その他	28	▲11
1～4の計	28	43
5. 期末残高	903	870
フリー・キャッシュ・フロー	67	206

指標推移

		2024年度 上期	2025年度 上期	前年同期比 増減
売上高営業利益率	[%]	21.1	18.9	▲ 2.2
売上高経常利益率	[%]	21.4	19.8	▲ 1.5
D/E レシオ	[倍]	0.02	0.02	+ 0.00
1株当たり中間純利益	[円]	71.4	66.6	▲ 4.8
1株当たり純資産	[円]	1,163.2	1,227.6	+ 64.4
9月末当社株価	[円]	2,460	2,587	
cf. 日経平均株価		37,920	44,933	
株価純資産倍率(PBR)	[倍]	2.11	2.11	▲ 0.01

- ・本資料はあくまで弊社をより深く理解いただくための資料であって、本資料による投資等何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・本資料は、現時点で入手可能な情報に基づいて弊社の判断により作成されておりますが、実際の業績が様々な要素により計画とは異なる結果となり得ることをご承知おきください。
- ・本資料のご利用に関しましては、ご自身の判断と責任にてお願いいたします。
- ・本資料の金額表示は、億円未満を四捨五入しております。

お問い合わせ先： 日油株式会社
コーポレート・コミュニケーション部 IR室 佐藤 一大
住 所： 東京都渋谷区恵比寿四丁目20番3号
電 話： 03-5424-6651
F A X： 03-6634-6471
E - m a i l： iroffice@nof.co.jp
ホ ー ム ペ ー ジ： <https://www.nof.co.jp>

本資料中に記載の商品名などは日油株式会社の登録商標または商標です。